

止まらないお米愛

佐野市立犬伏小学校

六年

唐木田

詩

十キロのお米を抱きかかえる。重いけどし
っかりと腰を入れて、優しくゆっくりに車の座
席に乗せる。シートベルともちゃんとする。
家に着いたら、絶対にドスンとおろしたりし
ない。赤ちゃんみたいに優しくおろす。

「大切な、大好きな、お米だからだ」
私が住んでいる町では、二毛作が行われて
いる。五月ごろ、金色の麦の刈り取りをする。

それが終わると、水門に人が集まってきた、
用水路の準備が始まる。畑に水が入ると水面
がキラキラ光って、山の緑を映す鏡のようだ。
五月の終わりごろ、田植えが始まる。緑色の
小さな苗が植えられて、まるで一年生がきれ
いに整列しているみたいで、とてもかわいい。
昼間に田んぼのそばを通ると、シラサギが
三、四羽立っていて、まるで友達同士で、話
をしているようだ。夜に通ると、少しカエルの
の音がする。真夏は、カエルの声で何も聞こ

えなくなるぐらいだ。

夏が終わり秋になると、台風のニュースが
とても心配になる。せつかく実ってきたお米
が、たおれてしまうのではないか。農家の方
が一年かけて育ててきたお米が、だめになっ
てしまつたらどうしよう。祖母がうちに新米
を持って来てくれると、よかつたと思うのと
同時に、急にお腹が空いてくる。

「あんなに小さかつた稲が、元気に成長して
おいしくなつて私のもとへ来た！」

もう私の楽しみは止まらない。

私の一番好きなご飯は、おにぎりだ。私は、
低学年のころ、食が細いとよく言われた。し
かし五年生のころから、ご飯をたくさん食べ
られるようになった。おにぎりだったら、い
くらでも食べられる。特に好きな具は、塩こ
んぶ。たきたてのご飯にかぶりつくと、中か
ら出てくる塩こんぶ。しょっぱくて、かめば
かむほどうまみがあふれ出す。食べ始めると、
止まらない。学校から帰つて来てすぐ、自分

でおにぎりを作って食べることもある。食べると、宿題をやる元気も出るのだ。

あと、私はずせないのは、卵かけごはん。これは本当においしい。ご飯としょう油を先に混ぜ合わせ、最後に卵をのせるのがポイントだ。ご飯としょう油と卵のおかげ、食欲をそそる。食べると、卵のトロみご飯とマッチしていて、鼻にしょう油のかがおりがぬける。その瞬間私は、別の世界に行ったかのようになる。おいしい、おいしいすぎる。私のお

米への愛は止まらない。

お米農家の方、おいしい水のために水源の山を管理している方、お米を運ぶ道路を整えてくれる方、他にも日本中のたくさんの方のおかげで、おいしいお米を食べられる。私は、ご飯を絶対に残しません。

「大切な、大好きな、お米だからだ。」